

# 四半期報告書

(第25期第1四半期)

自 平成24年7月1日

至 平成24年9月30日

株式会社ランシステム

埼玉県狭山市狭山台4丁目27番地の38

# 目 次

	頁
表 紙	1
第一部 企業情報	2
第1 企業の概況	2
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	2
第2 事業の状況	3
1 事業等のリスク	3
2 経営上の重要な契約等	3
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	3
第3 提出会社の状況	5
1 株式等の状況	5
(1) 株式の総数等	5
(2) 新株予約権等の状況	5
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	5
(4) ライツプランの内容	5
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	5
(6) 大株主の状況	5
(7) 議決権の状況	6
2 役員の状況	6
第4 経理の状況	7
1 四半期財務諸表	8
(1) 四半期貸借対照表	8
(2) 四半期損益計算書	10
2 その他	13
第二部 提出会社の保証会社等の情報	13
[四半期レビュー報告書]	14

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月14日
【四半期会計期間】	第25期第1四半期（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）
【会社名】	株式会社ランシステム
【英訳名】	RUNSYSTEM CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 濱田 文孝 埼玉県狭山市狭山台4丁目27番地の38
【本店の所在の場所】	（同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」 で行っております。）
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	東京都豊島区池袋2丁目43番1号（東京本社）
【電話番号】	03（6907）8111（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 面高 英雄
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第24期 第1四半期 累計期間	第25期 第1四半期 累計期間	第24期
会計期間	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日	自平成24年7月1日 至平成24年9月30日	自平成23年7月1日 至平成24年6月30日
売上高 (千円)	1,735,484	1,985,432	7,406,735
経常利益 (千円)	104,125	123,819	409,604
四半期(当期)純利益 (千円)	45,792	72,352	161,804
持分法を適用した場合の 投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	753,814	753,814	753,814
発行済株式総数 (株)	19,059	19,059	19,059
純資産額 (千円)	1,408,673	1,570,410	1,498,245
総資産額 (千円)	5,422,464	5,291,594	5,049,241
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	2,441.49	3,857.54	8,626.84
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	26.0	29.7	29.7

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第1四半期累計期間におけるわが国の経済は、復興関連需要等を背景に堅調な推移となっている一方、長期化する円高、海外経済の減速、消費者の節約志向の浸透等により、厳しい景況が続いております。

このような経営環境のもと、当社は、「お客様満足度向上の追及」「自社開発したシステムの販売による新たな収益の創出」「自遊空間既存店の設備投資」等を実施し、経営効率の向上に注力いたしました。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は1,985百万円(前年同四半期比14.4%増)、営業利益は112百万円(同27.9%増)、経常利益は123百万円(同18.9%増)、四半期純利益は72百万円(同58.0%増)と増収増益になりました。

セグメントごとの状況は次のとおりであります。

#### <店舗運営事業>

当事業につきましては、スペーススクリエイト自遊空間の認知及び自遊空間ブランドの更なる向上に努めるとともに、好調に稼働しているアミューズメントコンテンツの強化や店内環境の整備、人気オンラインゲームとのコラボレーションキャンペーンなどを実施いたしました。また、グランドメニュー、季節限定メニューの展開に注力いたしました。その他、自遊空間の新たなサービスとして1,200万人以上の自遊空間会員のコミュニケーションを活性化するためのWEBサービスを直営店にて開始しております。

当第1四半期会計期間末時点では185店舗(直営店舗63、FC加盟店舗122)となりました。

以上の結果、当セグメント全体の売上高は1,732百万円(前年同四半期比12.1%増)、セグメント利益は172百万円(同29.1%増)となりました。

#### <不動産事業>

当事業につきましては、不動産賃貸物件の適切な管理に注力し、計画通りの売上推移となりました。

以上の結果、当セグメント全体の売上高は120百万円(同3.9%減)、セグメント利益は26百万円(同24.3%減)となりました。

#### <その他事業>

その他事業として購買業務、システム外販業務及びメディア・広告業務を運営しております。システム外販業務では、主に自社開発の入会システム・会員管理システム等を時間課金制を採る店舗向けに販売しており、新たな収益創出に向けた展開を実施しております。メディア・広告業務では、主に自遊空間ポータルサイトにおける広告営業や自遊空間会員が店舗外でもコミュニケーション可能なWEBサービスを提供しております。

以上の結果、当セグメント全体の売上高は131百万円(同104.7%増)、セグメント利益は26百万円(同51.6%増)となりました。

#### (2)財政状態の分析

##### (資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産は、1,985百万円となり、前事業年度末に比べ171百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が212百万円増加したことなどによるものであります。

固定資産は3,306百万円となり、前事業年度末に比べ71百万円増加いたしました。これは主に、工具、器具及び備品が72百万円増加したことなどによるものであります。

この結果、総資産は、5,291百万円となり、前事業年度末に比べ242百万円増加いたしました。

##### (負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債は、1,675百万円となり、前事業年度末に比べ98百万円減少いたしました。これは主に、未払法人税等が131百万円減少したことなどによるものであります。

固定負債は2,046百万円となり、前事業年度末に比べ268百万円増加いたしました。これは主に、長期借入金が増加したことなどによるものであります。

この結果、負債合計は、3,721百万円となり、前事業年度末に比べ170百万円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産合計は、1,570百万円となり、前事業年度末に比べ72百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が増加したことなどによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は、29.7%（前事業年度末は29.7%）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	63,600
計	63,600

###### ②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	19,059	19,059	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	当社は単元株制 度は採用してお りません。
計	19,059	19,059	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	—	19,059	—	753,814	—	792,059

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 303	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 18,756	18,756	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	19,059	—	—
総株主の議決権	—	18,756	—

② 【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
株式会社ランシステム	埼玉県狭山市狭山台4丁目27番地の38	303	—	303	1.59
計	—	303	—	303	1.59

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、アスカ監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3. 四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】  
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,044,653	1,257,029
売掛金	261,078	254,534
商品及び製品	187,019	153,950
仕掛品	6,404	4,803
原材料及び貯蔵品	30,506	25,035
その他	296,666	301,957
貸倒引当金	△12,046	△11,725
流動資産合計	1,814,282	1,985,583
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	921,876	948,180
車両運搬具（純額）	0	—
工具、器具及び備品（純額）	193,650	266,436
土地	935,178	919,678
有形固定資産合計	2,050,705	2,134,295
無形固定資産		
のれん	19,649	17,465
その他	81,747	83,561
無形固定資産合計	101,396	101,026
投資その他の資産		
敷金	868,381	861,539
その他	246,947	248,668
貸倒引当金	△32,471	△39,518
投資その他の資産合計	1,082,857	1,070,688
固定資産合計	3,234,959	3,306,011
資産合計	5,049,241	5,291,594

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成24年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	177,644	145,506
短期借入金	250,000	250,000
1年内償還予定の社債	153,000	153,000
1年内返済予定の長期借入金	601,247	631,106
未払法人税等	226,472	94,966
引当金	31,347	49,347
資産除去債務	9,650	8,400
その他	323,842	342,760
流動負債合計	1,773,205	1,675,086
固定負債		
社債	50,000	40,000
長期借入金	1,297,518	1,566,235
資産除去債務	159,873	170,521
その他	270,398	269,341
固定負債合計	1,777,790	2,046,097
負債合計	3,550,996	3,721,183
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	753,814	753,814
資本剰余金	792,059	792,059
利益剰余金	△23,963	48,388
自己株式	△23,969	△23,969
株主資本合計	1,497,940	1,570,292
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	304	117
評価・換算差額等合計	304	117
純資産合計	1,498,245	1,570,410
負債純資産合計	5,049,241	5,291,594

(2) 【四半期損益計算書】  
【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年9月30日)
売上高	1,735,484	1,985,432
売上原価	1,400,206	1,610,992
売上総利益	335,277	374,439
販売費及び一般管理費	247,667	262,421
営業利益	87,610	112,017
営業外収益		
受取利息	1,088	875
販売手数料収入	25,586	20,029
その他	1,014	144
営業外収益合計	27,689	21,049
営業外費用		
支払利息	10,507	8,641
その他	667	605
営業外費用合計	11,174	9,246
経常利益	104,125	123,819
特別利益		
固定資産売却益	—	737
賃貸借契約解約益	—	13,017
特別利益合計	—	13,755
特別損失		
固定資産売却損	—	10
固定資産除却損	508	1,394
特別損失合計	508	1,404
税引前四半期純利益	103,616	136,170
法人税等	57,824	63,818
四半期純利益	45,792	72,352

【継続企業の前提に関する注記】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期会計期間より、平成24年7月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は法人税等に含めて表示しております。

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)
減価償却費	65,305 千円	75,361 千円
のれんの償却額	2,183 千円	2,183 千円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期累計期間（自平成23年7月1日 至平成23年9月30日）

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

II 当第1四半期累計期間（自平成24年7月1日 至平成24年9月30日）

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間（自平成23年7月1日 至平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上 額(注2)
	店舗運営 事業	不動産 事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,545,425	125,726	64,332	1,735,484	—	1,735,484
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,545,425	125,726	64,332	1,735,484	—	1,735,484
セグメント利益	133,763	35,281	17,385	186,430	△98,820	87,610

(注) 1. セグメント利益の調整額△98,820千円は、全社費用であります。主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期累計期間（自平成24年7月1日 至平成24年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上 額(注2)
	店舗運営 事業	不動産 事業	その他 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,732,974	120,790	131,667	1,985,432	—	1,985,432
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,732,974	120,790	131,667	1,985,432	—	1,985,432
セグメント利益	172,703	26,722	26,353	225,779	△113,762	112,017

(注) 1. セグメント利益の調整額△113,762千円は、全社費用であります。主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)
1 株当たり四半期純利益金額	2,441円49銭	3,857円54銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (千円)	45,792	72,352
普通株式に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額 (千円)	45,792	72,352
普通株式の期中平均株式数 (株)	18,756	18,756

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

**第二部 【提出会社の保証会社等の情報】**

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月9日

株式会社ランシステム

取締役会 御中

アスカ監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 田中 大丸 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 若尾 典邦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ランシステムの平成24年7月1日から平成25年6月30日までの第25期事業年度の第1四半期会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ランシステムの平成24年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年11月14日
【会社名】	株式会社ランシステム
【英訳名】	RUNSYSTEM CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 濱田 文孝
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	埼玉県狭山市狭山台4丁目27番地の38
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役濱田文孝は、当社の第25期第1四半期（自平成24年7月1日 至平成24年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。